



平成28年10月7日

各 位

会 社 名：株式会社メディア工房
(コード：3815 東証マザーズ)
代表者名：代表取締役社長 長沢 一男
問合せ先：取 締 役 酒井 康弘
(TEL 03-5549-1804)

特別損失計上及び通期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、平成28年10月7日(金)開催の取締役会において、以下のとおり、平成28年7月8日付開示の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」にてお知らせいたしました業績予想と実績との間に差異が発生することとなりました。また、当連結会計年度において、適時開示基準に該当する特別損失を計上することとなりましたのでお知らせいたします。

1. 特別損失の発生及びその内容について

平成28年8月期において、一部不採算関連会社の評価の見直し及びのれん価値の見直しを行ったことにより、特別損失79,469千円を計上することとなりました。

2. 当期の連結業績予想と実績の差異

	連結売上高 (百万円)	連結営業利益 (百万円)	連結経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 連結当期純利益 (円)
前回予想発表 (A)	1,970	55	5	△10	△1.86
当期実績 (B)	1,940	26	△60	△139	△13.04
増減額 (B-A)	△30	△29	△65	△129	△11.18
増減率 (%)	△2	△53	—	—	—
(参考) 前回連結実績 (平成27年8月期)	2,427	268	216	86	0.08

3. 差異の理由

当社グループは、平成28年8月期において古いコンテンツの世界配信、ゲームコンテンツ事業の収益基盤化の推進、AR技術等の様々な新規事業への先行投資を積極的に行い、各事業における方針及び人員配置の見直しにより、主力事業である古いコンテンツ事業において名実ともにNo.1企業を目指すとともに、ゲームコンテンツ事業における子会社設立及び事業譲受を含む再編を行い、事業体制の整備等に力を注いで参りました。

しかしながら、当連結会計年度の古いコンテンツ事業においては、コンテンツ1つあたりの短命化、会員数の更なる減少並びに大ヒットコンテンツに恵まれなかったことから、直近の売上予測をやや下振れることとなり、減収・減益となりました。また、ゲームコンテンツ事業におきましては、開発遅延による新規ゲームタイトルのリリース遅れや体制変更に伴うリリースタイトルの見直し等が影響し、結果、当連結会計年度における売上への寄与には至りませんでした。

以上のことから、平成28年7月8日付けで開示した平成28年8月期の通期業績予測との差異が発生することとなりました。

4. その他

当社の業績等に関する詳細な情報は平成28年10月7日付開示する「平成28年8月期 決算短信」に記載しております。なお、これらに関して開示すべき事項が生じた際は速やかに公表いたします。

以上